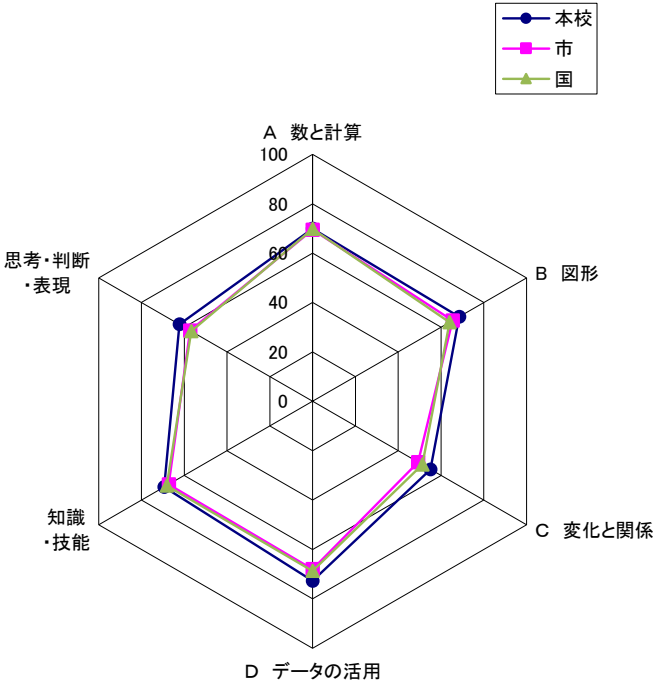


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.9	69.5	69.8
	B 図形	68.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	55.1	49.3	51.3
	D データの活用	72.7	68.0	68.7
観点	知識・技能	69.4	67.3	68.2
	思考・判断・表現	62.3	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○数と計算の平均正答率は69.9%で、全国平均より0.1ポイント高く、ほぼ等しい。 ●目的に合った数の処理の仕方を考察する問題の正答率は全国平均と等しいが、34.8%と低い。	・示された場面において、数を大きく見たり小さく見たりするなど、目的に合った数の処理の仕方を実感できるようにすることが大切である。概数を使って見積もることの意味やよさを実感し、生活場面に关わる具体的な問題を処理できるようにするために、問題の求めていることは何かを的確に捉え、目的に応じた数学的活動を計画的に取り入れ、繰り返し指導していく。
B 図形	○図形の平均正答率は68.5%で、全国平均より4.5ポイント高い。 ○示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題の正答率は58.4%で、全国平均よりも9.6ポイント高い。 ●辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形を書くことができるプログラムを選ぶ問題の正答率は66.3%で、全国平均より0.2ポイント低い。	・図形を構成する要素やそれらの関係に着目して、作図の仕方を筋道を立てて考えることが大切である。プログラミングにおける作図の手順を説明できるように、プログラミング教材を活用し、図形を描くときの命令の出し方が理解できるように指導していく。また、示されたプログラムの手順に沿って図形を描くことができる力を養っていく。
C 変化と関係	○変化と関係の平均正答率は55.1%で、全国平均より3.8ポイント高い。 ●果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ問題の正答率は13.5%で、全国平均より7.9ポイント低い。	・割合を用いた学習では、日常の具体的な場面に対応させながら、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したり、比例の関係を用いて未知の数量を求めたりする学習をていねいに繰り返し指導する。
D データの活用	○データの活用の平均正答率は72.7%で、全国平均より4.0ポイント高い。 ○分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ問題の正答率は78.7%で、全国平均より14.8%高い。 ●表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題の正答率は70.8%で、全国平均より4.5ポイント低い。	・表の意味や傾向は理解している。さらに、全体と部分の関係に着目して、数量関係を式に表すことができるよう指導していく。 ・ある項目に当てはまる数を求める問題を計画的かつ積極的に取り入れ、どの四則計算を使って立式したらよいかを考える力を養う。